優しいイエス様と厳しいイエス様

2025/2/9

イエス様の教えと、生涯の物語が記録されている、四福音書を注意深く読むと、イエス様にはこの上なく優しいお姿と、徹底して厳しいお姿があったことが分かります。それは、イエス様が対象にしていた人々によって、まったく異なっています。どうやらイエス様は、周囲の人々を幾つかに区分けして、対応しておられた様子です。

ひとつは、ユダヤ人であるか異邦人であるかです。イエス様はユダヤ人を、律法を与えられていた人々、すなわち神様の教えを受けていた人々、異邦人を神様の教えを受けていなかった人々として、大まかに分けて取り扱っていました。ユダヤ人に対しては、神様の教えを受けていたのだから、当然、とても厳しく対応する傾向がありました。異邦人に対しては、神様とその教え、あるいは命令を知らなかった者として取り扱い、当然、忍耐深く、優しく臨んでおられました。

しかしそのような民族による大雑把な取り扱いだけではなく、イエス様は一人一人の背景をつぶさにご覧になり、同じユダヤ人でも、律法についてしっかり学ぶ機会があった人々と、あまり学ぶ機会のなかった市井の人々とを、分けてご覧になっていたことが分かります。律法を学ぶ機会があった人々、エリート階級に属していた祭司やその家族、つまりサドカイ人、あるいは特別に厳格な宗教集団として知られていたパリサイ人、さらには聖書を書き写す特殊な仕事についていた、律法学者と呼ばれた人々に対して、イエス様はとても厳しく対処されました。一方、同じユダヤ人でも、身分も低く、律法をしっかり学ぶ機会も少なかった平民には、イエス様はとても忍耐深く、優しく対応しておられます。さらに、同じ異邦人であっても、自分の地位や権力に溺れている人たちに対して、イエス様厳しい態度をとっておられます。

また、民族や身分や所属会派、あるいは律法をしっかりと学んでいたかどうかには関わりなく、自分の弱さや足りなさを自覚せず、あるいは自覚してもそれを隠して、あたかも善人であるかのように振る舞っていた、偽善的な人々に対しては、イエス様は憤りを露わにし、自分の弱さ足りなさを痛感し、それを悲しみ打ちひしがれている人々に対しては、深い同情の心で対応しておられます。

さらに分かることは、偽善的なユダヤ人の宗教的エリートに対してでさえ、イエス様は最終的には、非常に優しいお方として臨んでおられます。イエス様がとても厳しい態度で対応されたのは、彼らを厳しく罰し、滅びに突き落とすためではなく、彼らに自分の弱さや足りなさ、罪や穢れを自覚させ、悔い改めに導き、救いを得させるためであったのです。イエス様は善い人にも悪い人にも、太陽を昇らせ雨を降らせる、天の父なる神の独り子だったのです。罪人を裁き、刑罰を与えるためにこの世においでになったのではなく、罪人

の救いのためにその罪を負い、身代わりに死ぬためにおいでになったのです。神様のみ姿を捨て、人となってこの世に現れ、人として苦しみ、人の身代わりになって十字架で殺されたのです。

私たちはつい、イエス様が厳しい態度を取られたことがあったことに倣って、人々に対して厳しく当たることもあるのですが、イエス様はそれらの人々のために、死ぬ覚悟でおられたのです。私たちが人に厳しく当たるとき、そのような覚悟をしているでしょうか。あるいは、私たちは、自分自身をどのような目で見ているでしょうか。

イエス様のように人を見、イエス様のように人と接することが出来るように、少し練習をし私たちの目を養っておきましょう。イエス様は、ご自分を嫌い、あくまでも疑い続け、殺意をたぎらせていた祭司階級の人々をどのように、取り扱いましたか？　イエス様のお教えに、自分たちの偽善を見破られ、何とかイエス様を亡き者にしたいと願っていた、多くのパリサイ人や律法学者たちとは、どのような接し方をしていましたか。しかし、祭司階級でも、しかも非常に高い大祭司の親戚であった、マルコや母のマリヤに対しては、どのような接し方をしておられましたか？　なぜそのように接することを選ばれたのでしょう。パリサイ派の高位の学者、ニコデモに対してはどのような態度を取っておられたでしょう。多分パリサイ派的な感覚を持っていた、金持ちで、小さなころから非常に立派な生活をして来た青年に対しては、どのようなお心で、どう対処しておられましたか？

あるいは長血を患って、イエス様の許にやって来た女には、どんなお取り扱いをしておられましたか？自分の娘の病気のために、イエス様にお願いにやって来た異邦人の女を、イエス様はどのようにお取り扱いになりましたか？　ローマ軍の百卒長男に対して、イエス様はどのように接しておられましたか？　ローマ政府の手先となり果て、余分に取り立てて財産を蓄え、蛇蝎のように嫌われていたザアカイにたいして、イエス様はどのようなことをなさいましたか？　同じく、税金取りとなって、人々から罪人として嫌われていたレビ（マタイ）とその友人たちに対して、イエス様は何をなさいましたか？　姦淫の現場で捕まえられ、イエス様の前に引きずり出された女に対し、イエス様は何をなさいましたか？

ご自分に付き従っていた者たちの中で、安易に、「イエス様。私たちはどこまでも、あなたに従って参ります」という者たちに対し、イエス様は、どのようにお答えになっているでしょうか？　またイエス様は、死んでしまったのに三日も後に生き返らせたラザロと、二人の姉たちをとても愛しておられたようですが、どうしてラザロを、側近の弟子にはしなかったのでしょう？

その上イエス様は、わざわざ、パリサイ人と罪人が同じ時に祈りにやって着た、たとえ話をして下さいました。自分が、一緒に祈っている罪人のようなものではなく、立派な生活をしていることを誇って、神様に感謝の祈りを捧げた人と、自分の罪の深さをに打ちのめされて、顔を上げることもできず、胸を打ちながら赦しを願っていた罪人のうち、神様の祝福を受けて帰ったのは罪人の方であったという、話の意味を理解しましょう。私たちは、自分をどのような者であると考え、隣人たちをどういう目で見ているでしょう。

　またイエス様は、金持ちの家から出される食べ残しで、飢えをしのいでいた乞食のラザロと、その金持ちが共に死に、金持ちは火の燃える裁きの場に落とされ、ラザロはアブラハムの懐に抱かれていたという、たとえ話をして下さいました。イエス様のお話の目的、意図は何だったのでしょう。深く考えてみましょう。
もしてくださいました。イエス様の意図はどこにあったのでしょう。